

12月1日(金)

お酒もお菓子も我慢して

由布院小学校

「象列車集会」に行きました。

なんと、藤村さんも駆けつけて

由布院小の皆さんにメッセージを  
伝えて下さいました。

その日は冷たい雨が降りましたが  
会場の体育館は熱い想いで  
満たされました。

「象列車集会」の復活です!

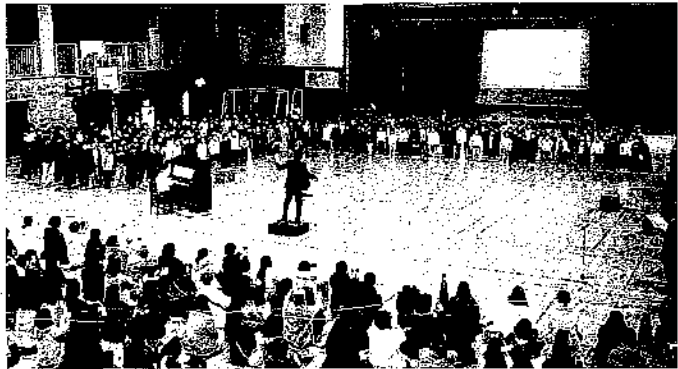
# 由布院小学校

大分を訪ねて

12月1日、大分県由布市は雪も湿る寒さだった。以前から埼玉・川口でうれっしや合唱団の荒木紀理子さんから伺っていた由布院小学校の「全校ぞうれっしや集会」に参加した。川口からも荒木さん以外3人が参加された。

コロナ禍を越え4年ぶり

戦後の日本に、子どもたちのピースメッセージを乗せた象列車が走って今年75年。そのドラマを描いた合唱構成「ぞうれっしやがやっってきた」(清水則雄作詞、藤村記一郎作曲、1986年初演。以来、全国、海外でも演奏)。大分県の由布院小学校では35年、全曲演奏の「ぞうれっしや集会」が開かれている。昨年12月の全校集会を訪れた作曲の藤村記一郎さんより。



▲子どもたち、保護者が口の字に囲んで演奏

のリアル開催(映像での集会は続けていた)、全校児童370人の子どもたちと全職員、そして35年前の開始とともにできた地域の「コールあさきり」の方々、100人ほどの保護者も参加の中、子どもたちの司会で集会は始まった。

各学年、そして全員  
庄巻の全校合唱  
古長史哉(こちようふみや)校長先生は最初に「35年間も全校で全曲を歌い続けている学校は日本中どこにでもありますよ!」と、私たちが集会前にお伝えしたことを紹介された。私も最初の挨拶で「自己紹介の「すうがく大好き」の歌に続いて、その素晴らしいさを伝えた。寒い体育館に、全校生徒と、先生や大人のコーラスの方も「コ」の字に座り、保護者が加わると全体が口の字に。舞台上グラ

## 教職員の合意、保護者、音楽家

## 学校と地域の共同作業

(6年)、「本物のぞうが見たい(3年)」「ぞうをかした(3歳)」「ぞうをかしこ(4歳)」、その後、全校児童と大人たちが合同で「ぞうれっしやよはしれ」「平和とぞうと子どもたち」を歌い上げる、旺盛だ。



▲指揮者楠本先生

護者として参加された地域の音楽家のみなさんの支えの共同作業だと感じる。ぞうれっしや集会のあと学校隣の図書館でこの原稿を書いていると、歌い終わったばかりの4年生の子どもたちが数人、宿題をしなから、「冬の街に雨がふるる...」(空地はすべてたがやされく...)、など延々と歌いながら宿題をしている。自分の学年の分担当した歌だけでなく、すべての歌をほとんど歌い続ける!それもとても美しい声だ。町中で「ぞうれっしや」が歌えるかもしれない。終了後、保護者の方から「この学校の卒業です。私が6年生の時に始まったんです。35年間の卒業生が全員「ぞうれっしや」が歌える!そんな卒業生が増えれば町中で歌えますね」と答える。集会での私からの要望に「来年(今年)は歌って参加したい」と笑顔で話された。私も、この集会は毎年12月の初め、日本のうたごえ祭典in佐賀で「全国ぞうれっしや合同合唱」(11月30日、大音楽会)のあと、伺いたいとお伝えした。



▲教職員のみなさん

歌う子どもたち  
35年間続くのは、教職員がこの取り組みに対する合意形成の力と、音楽専科の教員がいない中、初めは保

by  
しばゆ  
しばね  
うしゆ  
あのじ

うたごえ新聞  
No.2519号

藤村さんの記事  
その模様を  
お伝えします。